野外定着カナダガンの他地域への分散

久米宗男 [1]

Muneo KUME：Expanding distribution of invasive Canada Goose

はじめに

静岡県富士宮市の富士桜自然墓地公園で「シジュウカラガン」が繁殖しているとの聖教新聞の記事を筆者が初めて見たのが 1987 年 5 月で、翌年 5 月にも同様の記事が掲載されていた。そして、1989 年 12 月には同公園の開園 10 周年を迎える特集記事が見開きで同紙に掲載され、「シジュウカラガン」が 10 羽に増えていることを紹介していた。

ちょうど、1989 年 7 月頃に日本雁を保護する会の横田義雄会長（当時）から依頼を受けた同会会員の高良真一氏が同公園で現地調査を行っていた（呉地私信）。同紙の記事の通り珍しい渡り鳥のシジュウカラガンが繁殖しているのなら大ニュースだが、アメリカ大陸産の大型の別亜種なら大問題である。そこで私も（財）山階鳥類研究所の杉森文夫広報室長（当時）や日本雁を保護する会の呉地正行氏と連絡を取りながら、調査を始めた。なお、この鳥は当初は種シジュウカラガン *Branta canadensis* の大型亜種カナダガン *B. c. moffitti* とされていたが、2012 年 9 月、日本鳥類目録改訂第 7 版（日本鳥学会 2012）により日本在来の亜種シジュウカラガン *B. hutchinsii leucopareia* とは別の種カナダガン *B. canadensis* の大型亜種オオカナダガン *B. c. moffitti* とされた。ただし、この報告では「カナダガン」と記載する。

「シジュウカラガン」飛来

富士桜自然墓地公園にシジュウカラガンが飛来した状況を、前述の高良氏の調査報告（呉地私信）および 1992 年 6 月に筆者が日本野鳥の会富士宮支部長・阿部英雄氏（当時）から聞いた話をもとに、以下にまとめる。

1986 年 5 月、同公園の管理人から阿部氏へ、シジュウカラガンの繁殖について電話があった。翌日、阿部氏が一人で同公園に行って調査・写真撮影を行い、シジュウカラガン（実際には大型亜種のいわゆるカナダガン）と確認した。

同公園管理人の話によると、1985 年年 1 月上旬、珍しい大雪の日の夕方のこと、初めは 2 羽の姿が見えたが、そのうち 1 羽の水鳥が同公園の池に降りた。他の 1 羽はしばらく上空を飛んでいたが、見えなくなった。よく見ると、降りた 1 羽は右脚を痛めているようだった。数日後、別の 1 羽がやって来て番となった。ただし、阿部氏は「富士宮市の自然」には、「翌日連れの 1 羽が戻ってきた」と記載している（富士宮市 1995）。初めの 3 年間ほどは全くの野生状態で人に馴れていなかったが、雛が育つようになってからは人に馴れ、1987 ～ 88 年頃より、池で幼鳥がパン屑をもらうようになった。

付近では、富士サファリパーク、田貫湖・花鳥山脈、日本平動物園でシジュウカラガン（カナダガン）を飼育していたが、阿部氏のカゴ抜けの可能性の問い合わせに対しては、いずれも「該当無し」という答えだった。

なお、地域誌「季刊わがまち」の表紙にも 2 羽のカナダガン成鳥と 3 羽の雛がさっそく登場している。その記載内容は阿部氏の話や報告と若干異なるが、参考として紹介する。「今年（1987 年）の春、仲間の群れにはぐれたのか一羽のガンが岳ろくの一つの池に舞い降りてきた。どうやら脚にケガをしていたらしい。二

1: 創価学園　E-mail：muneo.kume@nifty.com
キーワード : カナダガン、シジュウカラガン、特定外来生物
Key words：Canada Goose , Cackling Goose , specific alien species

日ばかりして、ペアーの雄のガンがもどってきた。そして、そこに愛の巣をいとなみ、五月子どもが生まれた。今もガン一家はそこに住んでいる。」（わがまち社 1987）

補足：葉山久世氏が、当時、花鳥山脈の職員だった伊藤氏に 2015 年頃に聞いた話では、「花鳥山脈はカナダガンを飼育していなかった。しかし、すでに野生化していたカナダガンが敷地内の池に飛来し、花鳥山脈で飼っていたアヒルなどといっしょに泳いでいることがあった。知らない人がこの様子を見たら、花鳥山脈で飼っていると誤解されたかもしれない。」と述べている（本誌「特定外来生物カナダガンの生態系からの排除の活動記録」－野生化の経緯と由来－参照）。

富士桜自然墓地公園での繁殖状況

1985 年～ 1992 年までの同公園でのカナダガンの繁殖状況を示した（表 1）。その後も数年間は 1 ～ 2 番程度が繁殖に成功しているが、同公園で観察された成鳥の個体数は数羽程度であった。

阿部氏の観察記録では、1989 年までに同公園の池で巣立った成鳥は 10 羽で、初めの 2 羽は 1988 年に死亡とあるが、同じ時期の高良氏の聞き取り調査（呉地宛私信）では、同公園の守衛が最大 15 羽を観察したという。また、阿部氏の報告（富士宮市　1995）では、1993 年 4 月には 23 羽が生存していたという。もしこれらが事実なら、同公園以外で繁殖した個体がいて、それらが幼鳥を連れて戻ってきている可能性がある。

他地域への分散

筆者は全国のカナダガン観察例をメールやネット情報をもとにできるだけ収集した。その中から、静岡県をはじめ 11 都県での初認を中心としたカナダガンの主な観察記録を示した（表 2）。

野外における富士桜自然墓地公園以外でのカナダガンの観察例は、筆者が調べた限りでは 1988 年 3 月に行われた日本野鳥の会神奈川支部探鳥会（10 名参加）での相模川河口での 7 羽の記録がある（日本野鳥の会神奈川県支部　1992）。また、不確かな情報ではあるが、1988 年頃（1994 年時点で 5 ～ 6 年前）に東京都奥多摩町で観察したという（私信）。また、同公園近くの東京農業大学農学部富士畜産農場でも、1989 年頃（1999 年時点でおよそ 10 年前）からほぼ毎年数羽のカナダガンが観察されたという（私信）。

1988 年には同公園で巣立ったカナダガンが 10 羽、1992 年には同じく 19 羽がいたが（表 1）、前述したようにその前後に同公園でそれ以上のカナダガンが観察されていた。また、同公園から北へ 15km ほど離れた山梨県・本栖湖では 1989 年 8 月に 10 羽が観察された（私信）。これらが富士山周辺の同一個体群と考えると、その一部が北東または東へ 60 ～ 70km 離れた相模川河口や奥多摩方面に飛んでいったと考えられないことではない。一方、北へ 25km ほど離れた河口湖では 1992 年に 2 羽を観察、1993 年からはほぼ毎年繁殖が確認され、次第に個体数を増加させていった。

1992 年までは主に富士山周辺および富士山の東側地域で観察されていたが、1993 年になると富士山の

表 1　富士桜自然墓地公園での繁殖状況

年　月	繁　殖　状　況	個　体　数	出　　典
1985年1月	成鳥2羽飛来。	成鳥2羽	富士宮市の自然1995年
1985年5月	5羽孵化、その後1週間以内に消失。	成鳥2羽	富士宮市の自然1995年
1986年5月	5羽孵化、そのうち2羽消失、3羽巣立ち。	成鳥 2羽、幼鳥3羽	高良1989年(呉地宛私信)、富士宮市の自然1995年
1987年5月	5羽孵化、そのうち1羽消失、4羽巣立ち。	成鳥 2羽、亜成鳥 3羽、幼鳥 4羽	聖教新聞1987年5月9日、富士宮市の自然1995年
1988年5月	5羽孵化。	成鳥 2羽、亜成鳥 7羽、幼鳥 5羽	聖教新聞1988年5月9日、富士宮市の自然1995年
1988年6月	成鳥(親鳥)2羽事故死(?)、雛2羽行方不明。	亜成鳥 7羽、幼鳥 3羽	富士宮市の自然1995年
1989年5月	繁殖失敗(営巣場所を巡る争い？)	成鳥10羽	高良1989年(呉地宛私信)、富士宮市の自然1995年
1989年7月	－	15羽観察	高良1989年(呉地宛私信)
1989年10月	－	10羽観察	聖教新聞1989年12月7日、阿部1990年(呉地宛私信)
1990年5月	1夫2妻で2巣産卵、3羽(1羽＋2羽)孵化、3日目に消失。別番(1987年生？)から4羽孵化、巣立ち後、2羽消失。	成鳥 10羽、幼鳥2羽	聖教新聞1990年 6月13日、富士宮市の自然1995年
1991年5月	1番から6羽孵化、そのうち2羽消失、4羽巣立ち。別番(巣不明)から3羽巣立ち。	成鳥 11羽、幼鳥 7羽	聖教新聞1991年 5月10日、富士宮市の自然1995年
1992年4月	6羽孵化、そのうち2羽消失、4羽巣立ち。	成鳥 15羽、幼鳥 4羽	富士宮市の自然1995年
1993年4月	－	23羽観察	富士宮市の自然1995年

表２　カナダガンの主な観察例

年　月	観　察　地	個体数	備　　考	出　　典
1985年1月	静岡県富士宮市、 富士桜自然墓地公園	2羽	篭脱けか？	富士宮市の自然1995年
1988年3月	神奈川県茅ケ崎市・平塚市、 相模川河口	7羽	神奈川支部探鳥会で観察、 写真あり	はばたきNo.199
1988年頃	東京都奥多摩町	？	記憶情報	小林(呉地宛私信)
1989年8月	山梨県富士河口湖町、 本栖湖	10羽	写真あり	長谷川・増田(呉地宛私信)
1990年頃	静岡県富士宮市、 東京農業大学農学部 富士畜産農場	数羽	記憶情報	小川(私信)
1992年3月	山梨県富士河口湖町、 河口湖南岸	2羽	翌年以後ほぼ毎年繁殖か	山田(呉地宛私信)
1992年6月	静岡県富士宮市、田貫湖	1羽		宮林(私信)
1993年4月	静岡県静岡市、麻機遊水地	3羽	写真あり	伴野(「雁のたより」編集部宛私信)
1993年5月	神奈川県山北町、丹沢湖	3羽？	翌年以後ほぼ毎年繁殖か	Binos 1巻、1994年
1994年5月	東京都八王子市、 秋川・多摩川合流点	2羽		小林(呉地宛私信)
1996年3月	山梨県長坂町、みどり池	15羽		東京新聞1996年4月7日
1996年4月	長野県諏訪市・岡谷市 ・下諏訪町、諏訪湖	5羽		Web：信州諏訪自然写真館
1996年5月	静岡県袋井市、天竜川	2羽 ＋雛3羽	数年前から3羽が生息(?)	増田（Nifty会議室投稿）
1997年3月	長野県八千穂村、 東京電力八千穂調整池	5羽		呉地(私信)
1998年8月	埼玉県所沢市・入間市、 狭山丘陵・狭山湖	5羽		工藤(私信)
1999年4月	茨城県利根町、利根川	4羽	朝日新聞茨城版	朝日新聞茨城版1999年4月25日
1999年4月	千葉県、行徳鳥獣保護区	4羽		宮林（JGOOSE-ML投稿）
2005年5月	滋賀県守山市、野洲川	1羽		日本野鳥の会滋賀支部におのうみ20号記念誌 滋賀県の鳥2010年
2006年4月	長野県軽井沢町、塩沢湖	1羽		Web：俳句歳時記「鳥の図鑑」
2008年8月	岐阜県中津川市、高峰湖	1羽		加藤（canadagoose-ML投稿）
2012年12月	徳島県徳島市、勝浦川	2羽	羽切断の飼育個体か？	Web：とくしまぶらぶら鳥見散歩

西側、同公園から南西へ約 40km の静岡市内の麻機遊水池で観察された。また、東へ約 40km の神奈川県丹沢湖でも 1993 年 6 月に約 3 羽を観察、1995 年には繁殖も確認された。さらに、1996 年以後は山梨県長坂町、長野県の諏訪湖などでも観察され、特に静岡県の天竜川では繁殖も確認された。

そこで、主に富士山周辺で観察されていた 1985 年から 1992 年と、観察地を東西に大きく広げて個体数が増加した 1993 年以降にカナダガンが観察された地域を 8 年ごとに分けて示した。これらの個体はすべて富士桜自然墓地公園由来とは限らず、他地域からのカゴ抜け個体の存在も否定できないが、1988 年以前に他地域での観察記録がないこと、また、富士山周辺から徐々に広がっているようにみえることから、ここでは仮に全てを同公園由来の個体としておく。

1985 年から 1992 年までは相模川や奥多摩という 1 回だけの観察を除けば、ほぼ富士宮市および富士五湖周辺で観察されていた（図 1）。しかし、1993 年以降は観察地が茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・静岡・長野の 8 都県に大きく広がり、河口湖や丹沢湖、天竜川では繁殖が確認されている。天竜川の繁殖は 1 回だけの観察だが、他の繁殖地ではその後もほぼ毎年繁殖を行い、富士桜自然墓地公園で 1992 年に最大 19 羽、河口湖で 1996 年に最大 22 羽、丹沢湖で 1996 年に最大 5 羽のカナダガンが観察され、各地域に確実に定着したといえる（図 2）。

2001 年以降はさらに観察地が増え、岐阜県や滋賀県でも各 1 羽が観察されている。また、各地の繁殖地では富士桜自然墓地公園で 2003 年に最大 4 羽、河口湖で 2002 年に最大 25 羽、丹沢湖で 2006 年に最大 8 羽、精進湖で最大 2 羽のカナダガンが観察されている。さらに、2001 年には牛久沼にいたガチョウとカナダガンが交雑して 3 羽の雛が誕生した。この雛のうちの 1 羽は、番相手が不明だが 2002 年に抱卵が確認されている（図 3）。

2009 年以降は各地で個体数が大きく増加した（図 4）。篠田（2012）によると、少数観察例を除くとカナダガンは主に、①河口湖・山中湖（山梨県）、②田貫湖およびその周辺（静岡県）、③丹沢湖（神奈川県）の 3 つのグループに分けられ、2011 年の観察から最

図 1　カナダガンの観察された場所（1985 年～ 1992 年）

図 2　カナダガンの観察された場所（1993 年～ 2000 年）

図 3　カナダガンの観察された場所（2001 年～ 2008 年）

図 4　カナダガンの観察された場所（2009 年～ 2016 年）

大観察個体数は、①で 45 羽、②で 47 羽、③で 2 羽（足環付き）、総計 94 羽と推計された。なお、丹沢湖では 2011 年に 11 羽を観察したが、そのうち 9 羽を学術調査で捕獲し、7 羽を動物園に保護、2 羽に足環を装着して放鳥した。捕獲できなかった 2 羽はその後行方不明となった。同様に、河口湖や田貫湖でも 2014 年までに合計 32 羽を捕獲し、首環（一部は足環も）を装着して放鳥した。

当時、カナダガンは要注意外来生物として鳥獣保護法により保護される対象だったため学術調査および有害鳥獣駆除による捕獲しかできなかったが、その後、特定外来生物に指定され、駆除が行われるようになった。その結果、茨城県・牛久沼で 2 羽、神奈川県・丹沢湖で 1 羽、山梨県・河口湖で 42 羽、静岡県の朝霧高原で 5 羽、田貫湖で 19 羽、長野県・塩沢湖で 1 羽、徳島県・勝浦川支流の打樋川で 2 羽、合計 72 羽（2011 年の丹沢湖 7 羽を加えると 79 羽）を捕獲し、野外定着カナダガンは 0 羽となった。

引用文献

富士宮市 ,1995. 富士宮市の自然 ,pp.55-56.

久米宗男　日本各地で観察されたカナダガン (シジュウカラガンの大型亜種)（最終閲覧日 2020 年 10 月 1 日）、http://kume.life.coocan.jp/goose/otherarea.html

日本鳥学会 , 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版 . 日本鳥学会 , 三田 .

日本野鳥の会神奈川県支部 ,1992. はばたき ,No.199.pp.7-8.

聖教新聞社 , 聖教新聞 ,1987 年 5 月 9 日・1988 年 5 月 9 日・1989 年 12 月 7 日・1990 年 6 月 13 日・1991 年 5 月 10 日

篠田授樹 , 2012. 富士五湖 (河口湖・山中湖）のカナダガン生息状況 , カナダガンシンポジウム資料 .

わがまち社 ,1987. 季刊わがまち , 第 22 号 .